



大分県立竹田高等学校
 関東同窓会
 会報
 発行者・会長 後藤 鉄石
 編集者・足立 五郎
 印刷所・山口 文洋堂
 03 (3552) 0251

災害の地竹田を訪ねて

副会長 渡辺 正治

平成二年七月一日から二日にかけて、故郷竹田地方を襲った豪雨による水害に対する見舞いのため、母校関東同窓会及び関係会社の代表として、七月十一日より同地方を訪問した。

十一日。熊本空港から竹田への交通途絶のため大分空港経由とする。JRは、大分から緒方までしか通じていない。犬飼あたりの大野川は、なお真赤な泥水で平常水位より十米以上の高さまで洪水の跡が生々しく、樹木や竹林が倒されており、三重から牧口の間は幹線道路が寸断され、川岸や橋に流木が積み重なったままである。

緒方から先のJR線は全く不通であり、竹田・荻地方までは不定期バスの連絡による他ない。縁家Aに立寄り明日からの行動計画を立てる。
 十二日。同家の車で竹田に向かう。

幹線道路は不通のため、朝地町巡りの見知らぬ道路を迂回に迂回を重ね、沿道至る所に水害の跡を見つつ漸く竹田市役所に到着した。周辺の道路には、今なお土砂・流木が残っており、川向こうの民家数軒は崩壊したままである。

後藤市長・阿南助役と面接し、会社と同窓会よりの見舞金を差上げる。面談数分、前回（昭和五十七年）に数倍する災害であり、復興の困難さを印象付けられた。多事多難のさなかと身受けられ、見舞の言葉も早々に懇切な謝辞を受けて辞去した。

碧雲寺への道は不通のため別の道路を捜すこととし、西光寺と友人、縁者宅三軒を見舞う。代官町も同じく一階は全没、向いの黒川病院も閉鎖のままのようであった。一部を除き殆ど全町災害を受け、市民の悲痛感想像以上であった。

竹田高校を訪問し、倉原校長と面談、同窓会よりの見舞金も市の方へ差上げたことを報告。

玉来町の縁家を見舞う。山手、拜田原と稲葉川、玉来川の沿岸地区の被害は想像を絶する有様である。線路も水田も土砂と流木に埋り、レールの上に自動車がかかったままであった。市の文化会館を始め、一般民家の惨状は目に余るものがある。復興に悲観的な声が聞かれるのも無理からぬことと思つた。岡城の南側白滝川の沿岸も相当の被害である。再び緒方町に帰り縁家Bに泊まる。

十三日。今日はB家の車で再び竹田市を訪問、今度は57号線から城北町に入り、稲葉川を遡り七里を経て碧雲寺を訪れた。左側川向うの竹田小学校の校庭は、数カ所が川に崩れ落ちていり。道路になお土砂が残っており、碧雲寺の前から先は道路が崩壊、通行不能となつていた。しかし、寺の境内は水害の跡も目立つほどのこともなく、墓地も里見会長のお像も全く異常なく安堵した次第である。

十四日、別府に一泊する。大分から別府に至る海岸に、おびただしい裸の流木が打ち寄せられていた。全て大野川を流れ下った自然木と聞き、さらに暗然たる思いであった。玉来町で被災した婦人の遺体が臼杵湾で見付かったと聞き、信じられない思いであったが、自然の力は想像を絶するものがある。



(国道57号線拜田原・川となった国道で住民の救助)

一、七月七日、於鴨川、一第四回総会の慰勞と反省の会、出席二名、○会員のほりおこし、○無理のない出席、○会計の基礎作りの件について話し合い、なお、竹田市水害見舞のため救済援金の募集について決定、二、八月二日、於学士会館、役員会、出席四名、見舞金集金の件、組織変更の件、役員・常任幹事、幹事、各種委員の合同会議の件。

三、九月七日、於学士会館、出席四名総務委員会の創設と事務の内容の件、委員長得丸大典氏。

四、十月三日、於中央新光監査法人（霞ヶ関ビル）、出席四名、事務引継。

五、十月八日、於学士会館、出席五名、常任幹事、幹事、各種委員の合同会議開催の件、新委員加入脱退の件、加入、企画委員に小野郁彦氏（33）、句坂謙一郎氏（28）、組織委員に佐藤治彦氏（55）、広報委員に藤沢博吉氏（25）、脱退、前広報委員森哲生氏（28）。

六、十一月十日、定例常任幹事、幹事、各種委員の合同会議、於中央新光監査法人。

七、十月十二日、広報委員会編集会議。

◎事務局移転のお知らせ。

関東同窓会の事務局を左記に移転しました。東京都中央区築地二丁目七番十二号15山京ビル二〇五 伊東法律事務所 電話〇三三三五四三七八七四七

会務報告

7月～10月

七月中旬に先ず渡辺副会長が取急ぎ帰竹し、竹田市長に関東同窓会からの見舞金として五〇万円を渡しました。十月七日の本校同窓会に長吉幹事長が出席し竹田高校に五〇万円を、竹田市に二三〇万円を渡しました。残金四〇六、〇四〇円は竹田市に送金しました。

なお、義援金拠出者は次のとおりです（敬称略、順不同）。

宮崎貞光一〇〇万円、（以下金額は省略）

阿南一成、野田浪代、橋爪正章、朝倉三郎、後藤忠士、志生野温夫、牧野昭子、山口立、福井雪、田部実、首藤忠男、後藤是隆、巽光子、秦寿彦、伊藤大義、吉田忠、坂口政子、佐藤嘉一、佐藤重広、百瀬武子、辛島美恵、三浦親信、堀富義、渡島資裕、阿部英介、真井博司、服部舜次、池永淳一、池内勇吉、辻亨、阿南惟正、上野好生、中込タキ子、水野渚、川野恭子、後藤宗一、小野昌宏、飯倉次男、清水典彦、森一郎、田部健、中台スマ子、小泊喜代子、惣川和子、田中和美、菅博敏、工藤政幸、大津洋七、大津ムツ、西田成、用正靖彦、用正ツキ子、西山恭子、飯倉一郎、武内英則、佐野勝子、野口初子、後藤次士、矢口知子、吉崎祥子、上木公子、石井シヅエ、宗像五男、入江順子、足立恭子、熊谷克直、大津俊吉、広瀬歌子、小笹正雄、佐藤清八、野仲マチ子、神野弘、橋本二三、藪利秋、安西政雄、大塚隆右、藤沢博吉、島崎清司、広瀬尊子、佐藤毅士、久保寺生郎、山田和子、船山憲二、甲斐武至、志賀義信、青井房子、加治久継、久保タケ、久保礼五、羽田野寿一郎、佐藤朝生、大津栄一、小倉幸雄、小倉セツ、得丸正哉、得丸郁子、高畑憲蔵、赤池トラ、河野尚之、中山百子、羽田野令子、平山三博、高野優子、高野英雄、渡辺トシエ、今橋道子、原尻英俊、岡部三慧、秋吉政夫、栗生誠之助、羽田恒彦、甲斐智津子、阿南忠義、棚橋育子、水村君子、藤原保範、波多野節子、宮井久、村上ふく、



（本町より城北町に至る豊岡橋）

仲村睦雄、里見菊男、大久保俊秀、西山洋子、石川和子、佐藤充子、真田正紀、後藤桃江、後藤猛士、松沢多賀子、河室止、江崎和彦、須藤勲二、河野元義、河野昌子、新名義晴、徳丸和子、後藤葉子、植木淑子、田中寿人、渡辺三保子、松本由紀子、麻生巖、添田悦子、岡崎富貴子、菅正夫、後藤陸晃、武内和雄、水野美恵子、都甲文雄、佐藤皓一、岐部忠、大澤昭夫、桑島輝茂、古川勝俊、里見彰彦、西山尚子、吉岡卓也、田北元良、浜田高盛、大坪孝子、西誠、府内猛、前田健、高辻得之、高辻紀代、工藤幸男、青柳憲司、矢嶋三義、後藤鉄石、高宮昇、渡辺正治、伊東七五三八、得丸大典、久保田安子、楠原静子、工藤孝子、羽田野耕一、飯倉成憲、木村正毅、森河清、西田芳子、大塚好美、服部恭一、原田謙一、古謝正裕、三宮静子、別府正克、西文彦、秋本寿一、後藤大林、堀健一、吉良欣一、吉良純子、武藤省三、武藤芳子、野中典子、伊東忠明、高橋キミ、益永孝、谷正彦、高橋紀宏、工藤謙知、平井和子、田北光一、田北チエ子、平手肇、酒井俊治、岸野聰賢、仲村恒子、工藤久幾、澤ハル、川合文彦、津下渥子、梶井和子、東鳴シゲ子、工藤敏暢、吉場伸子、鐘ヶ江碩則、栗生輝男、有馬洋子、吉良博子、栗生利信、藤本健次、佐々田ヤエ子、相馬幸生、

水害見舞金の報告

御協力ありがとうございました。

会員三二九名の皆様から、総額三、七〇六、〇四〇円の暖かくそして尊い心のこもった見舞金が集まりました。

岡野久子、山口雄三、室谷静子、阿南幸子、三枝琉美子、松村輯三、足立五郎、工藤准一、石山周二、大友瑠璃子、奥田皓介、林盛生、酒井節子、鶴岡トヨ、渡瀬和子、高山茂美、宮田幸子、菅ミツエ、三宅善喜、三宅礼子、久保博紀、高野忠、羽田野次彦、長吉泉、加藤郷一、高山英一、田北喜代子、近藤平四郎、吉武正幸、梶原克之、工藤錦五、高木正子、矢野子賀子、後藤郁子、麻生幸雄、吉澤順子、野口とし子、鹿島幸子、本間由伊子、神戸正光、神戸孝子、松村イチ、柳崎睦、上野高正、小代孝、久保文明、飯倉一郎、森哲生、石原田鶴子、安藤徹也、今沢武人、横田キヨ子、内山トモ子、少名子誠一、伊藤瑛介、鈴木八千代、阿南雄二、本田和喜、小代シゲ子、山村伊吹、佐田俊一、佐田康子、田部厚、平本照磨、古庄隆史、田北忠、後藤訓生、日野和人、甲斐圓敏、吉田英明、内田豪、福井不二子、佐藤千尊、堀貴明、阿南ヒデ、益城誠一、甲斐正和、板井洋一郎、句坂謙一郎、佐藤文昭、本田公雄、板井昭三、佐藤映之、緒方義信、白土恒子、渡辺フミ、工藤勘吾、高松梯子、春日井みあき、廣石翠子、植木智恵、中屋祐俊、利根範子、小野伊智子、志賀静江、山本節子、勝畑宣子、深田死子、藤野寿、河野展治、和田真琴、田北英治、岡村光博。

生利信、藤本健次、佐々田ヤエ子、相馬幸生、



（梓田原より玉来に至る常磐橋）

ふるさと短信

ふるさと竹田——秋

中野 廣 士

竹田の秋は素敵です。やがて周囲の山々も錦に飾られ見事な景観を呈します。谷間から流れ出る明水もいよいよ澄み、しんしんと更ける夜、カボスの香も一段と冴え、酒の味わいも深まっています。

秋の竹田は大好きです。心のふるさとを思われます。

市においても、秋の行事に力を入れてきています。

「岡城観月祭」―荒城の月の下、野点で一服、尺八・琴の演奏に耳を傾け、カッポ酒を酌み、荒城の月の大合唱。「竹田薪能」―往時藩公が楽しんだ岡

城足下稲葉川畔の三日月岩のもとでの塩津哲生・その家中（喜多流）による能舞台。周囲の暗闇の中、元禄の世に刻まれたといわれる岩壁の三日月に点火、照明に照らし出された城の石垣、川面にきらめく篝火、谷間にこだまする鼓の音色と荘厳な謡曲に乗っての幽玄なる能楽・狂言。

「滝廉太郎記念音楽祭」―滝廉太郎の遺徳をたたえての西日本高等学校独唱コンクール及び専門家のコンサート。「竹田美術祭」―田能村竹田を偲んでの児童・生徒作品展、市内愛好者及び県内専門家作品展、併せて竹田先生年



竹田薪能

能 紅葉狩 塩津哲生
長唄 八 島 野井秀
狂言 月見座頭 山本 東次郎

10月20日(土) 午後5時30分開演 (開場1時間前)

竹田市 三日月岩特設舞台
全席自由席 前売 3,500円 当日 4,000円

主催 竹田喜多会・豊後岡藩もぐら会
後援 竹田 市・竹田市教育委員会

竹田薪能

祭、先生及び師友・門人の文人書画展、竹田荘茶席、盆栽展等。

その他、九州太鼓祭、奥豊後ふれあい祭、南こうせつコンサート、熊沢蕃山没三百年祭等々多彩に繰り広げられます。

ふるさとの整備も進められています。歴史資料館の開設、竹田荘の改修、歴史の道カラー舗装、お客屋敷の改修と茶房開店、メロディートンネルの設置、



竹田より愛をこめて

波多野 英次

岡城址の枯葉を踏みしめ、心のやすらぎを求めて散策する頃となりました。祖母傾、久住阿蘇の山ふところ、城下町竹田より諸事の要旨を報告します。

去る十一月七日、本部総会を岡城本丸を主会場に盛大に開催致す計画でありましたが、台風二十一号の接近で、やむなく市内の料亭に変更しました。

関東同窓会の方々も御帰郷頂いておりましたが空の便が欠航になる恐れがでて参り、急ぎ御帰京頂きました。セレ

モニ―では全権として長吉泉様に御祝辞を賜りました。又その折七月二日の竹田大水害に対して、関東同窓会より過分なる御見舞を頂戴致しました。本紙をお借りして皆様方に厚く御礼申し上げます。

現在、母校の生徒数は各学生五クラスで、全校六七五名定員であります。

殿町の整備、愛染堂の国指定等すでに成り、現在、岡城跡の史跡整備、中川歴代藩主墓地（おたまや公園）の整備復元、滝廉太郎旧邸の修復等着々と進められているところです。

ふるさとには遠きにおいて思うもの。少年時代の思い出をいっぱい秘めています。秋はふるさとの季節です。今、竹田は秋の真最中。

(竹田市立図書館長)

体育館の大改修も終り、県下のいずれの学校にも劣らぬ立派な施設設備が整いました。すばらしい教育環境に恵まれて後輩達も、各界で御活躍の大先輩諸兄姉に負けじと勉学にスポーツに精進努力致しており実績も上がって参りました。

私共同窓会のこれからの目標として、母校創立百周年記念誌の編集を計画致しております。その折は大先輩皆様方の御執筆をお願い致します。

ふるさとには遠にありて想うものとかおわりに、夢を希望を胸に秘めて多感な青春時代を竹田の地で過ごされた同窓生の皆様、故郷で培われた精神をベ―スに、益々の御活躍、御発展をお祈り申し上げます。ふるさとからの報告にかえさせて頂きます。

(本部事務局長)

会員点描

祝・宮崎貞光氏勲五等受賞

会長 後藤 鉄石

本会の名誉会長宮崎貞光氏には、積年の税務功勞に対して、春の叙勲者として、勲五等瑞宝章を授与されました。会員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

その受賞祝賀会が、去る十月十九日氏の経営する旭商会のある帝国ホテルの「光の間」で開催されました。当日の盛況ぶりをご報告いたします。

広い会場も、氏の受賞を祝う参集した関係者で、まさに立錐の余地がないほど。例のように志生野温夫アナウンサーの名司会で祝賀会は開催されました。

発起人代表の全国間税会総連合会会長の吉岡勝氏の開催の挨拶に続き、元大蔵事務次官、現横浜銀行会長吉国二郎氏をはじめ、前国税庁長官水野勝氏、大分県知事平松守彦氏(代理)東京国税局間税部長村瀬吉彦氏麴町税務署長豊森照信代等の祝辞。二人のお孫さん、からの花束贈呈に続いて、受賞者の謝辞。帝国ホテル社長犬丸一郎氏の音頭で乾杯、会は一気に盛り上がりました。庄巻は、花束贈呈のあと、お孫さん陽平ちゃん(六歳)の作詞作曲の歌「おじいちゃまおめでと〜」のご披露でし

(写真)

「おじいちゃま おめでと〜。あなた は すてきな おじいちゃま。かみさ まの おことば どおり しあわせに なりますように。」

これには「おじいちゃま」だけでなく、参会者一同強く胸を打たれました。陽平ちゃんのお母さんのお話によると、帝国ホテルに行く車の中で、即興的にできた歌だったとか。

おふくろの味・ぱぶ「明日香」(あすか)



(ママぶりも板についた紀子さん)

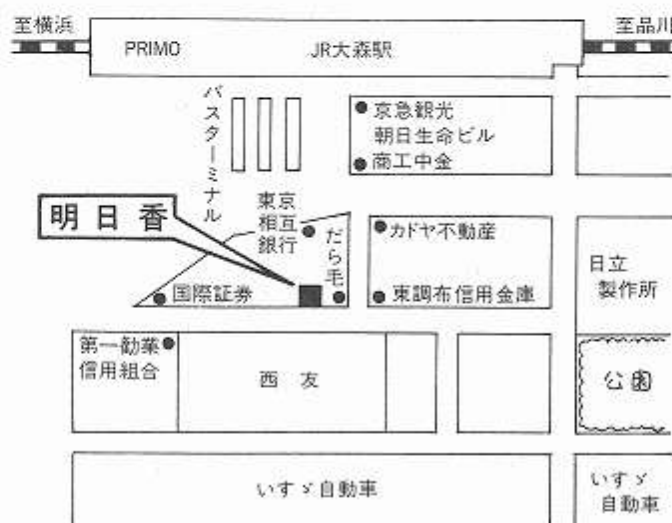
カウンターに七人、ボックス席には二十人ほど座れます。そのほかにお座敷があり、商談や歓送迎会、二次会などに便利なところですよ。クリーム色の色合いが、シックで落ち着いた店といえそう。「おふくろの味」を自慢にしているだけに、独身者には懐しさを、おじさん達には、たまに変わった「家庭」の味が好評のよう。「近くのいすゞ自動車の皆さんには、お店をいつも可愛がってもらっています。気を遣わずに楽しく歌って飲んで



(おじいちゃまおめでと〜を歌う陽平ちゃん)

祝宴、余興は、時間を忘れさせがりますが、竹田市長後藤宗昭氏の中締めで、心を残しながら辞去しました。

「ただける店を、目指しています。」と十月に開店一周年を迎えた、瓦林紀子ママ(旧姓古庄 28年卒)の言葉。お値段・オールド5000円とりざー5500円のお手頃。営業時間・午後6時から12時まで。場所・東京都品川区南大井6-28-3 松江ビル3F 電話03-7664-0626 (京浜東北線大森駅東口3分)



想い出

八木洋子 (旧姓河野)

十月十日、体育の日、上野から山手線に沿って谷中墓地を通り日暮里、我が家まで散歩致しました。

日暮里で、郷土の誉れ高い彫塑家、朝倉文夫先生のアトリエ兼ご自宅(通称朝倉彫塑館)を見学し、すばらしい作品の数々を拝見することが出来ました。その中には、母校竹高の体育館前に在る「競技前」という作品も紹介されておられ、コメントは私が在校していた時の四ノ宮校長先生のものでした。

なつかしさはひとしお、ふと、夕暮れまでグラウンドでボールを追いかけていた十六・七才の頃を思い出したので。学生生活の過し方はいろいろありますが、まっ黒に日焼けして夢中にソフボールをしていた事も、私なりの過し方だったと思います。

当時の母校は男子は剣道、女子はソフボールが花形でした。私が三年生の夏は、県代表として九州大会に参加する事が出来ました。しかし部員は十五名程度で、いきおい体格はふぞろい、登録選手に足りるか足らないかという状態でした。

私達は、放課後早々に下校する同級生を横目でみながら、夕暮れまで練習するので。時には辞めたい休みたい

と思いましたが、何人か欠けると練習にも支障をきたします。わがままは許されません。期末テストの前日にも練習した記憶がまざまざと残っています。

そんな日々の中、何故続けてこられたのでしょうか? 限られた人数で互いにいたわりあい、はげましあい、かばいあって、一つのボールに思いをこめてプレーします。そして白いボールがその輪郭をかくす頃、汗を流した後何とも言えない爽快感と心地良い疲労感に満たされるのです。その中には表現の出来ない喜びがあったように思います。そしてそれは、スポーツを愛する人へのみ理解出来る心もようだったのかもしれない。

過日、同窓会誌を拝見致しましたが、今はソフボール部は廃部のようでした。やはり!という気持ちの中に一抹の淋しさを感じました。

卒業して三十年近く、母校のようすはかなり変化しているようですが、私の心の中に在る母校は少しも変化することなく、当時のままなのです。

そんな想いを残し、館をあとに……青春の日の想い出に浸ったひとときでした。

(38年卒)

恒例の「竹田会」開催

去る十一月十五日、中野区サンプラザで、平成二年竹田会総会が開催されました。

会は、会長(日本パーカラライジング里見社長)の挨拶に続き、来賓(阿南竹田市助役・加藤竹田商工会議所会頭)挨拶のあと、宮崎竹田名誉市民の乾杯、会食歓談。福引抽選で山芋を当てた人もいました。

この会は、「竹田に関係のある人」ならどなたでも入会できます。事務局は中央区日本橋一ノ十五ノ一、日本パーカラライジング社内。TEL 〇三―三二―七八―四三〇七(社長室長 小代まで)



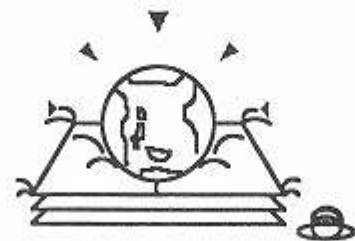
(竹田会総会1990.11.15 サンプラザ13F)

オなクルマ。



ISUZU
NEW GEMINI

決して過保護じゃ、ありません。



かけがえない資源を大切に。表面技術のトップメーカー

日本パーカラライジング株式会社

本社：東京都中央区日本橋1-15-1 TEL：03-3278-4333

クラス会情報

「チャンチャンコ」の出会い

竹高二五会・四十周年記念同級会

鐘ヶ江 碩 則

終戦当時、旧制中学から新制高校へと激動の時代を過ごし社会に出て四十年、全国から総勢五十八名竹田に集合。久し振りに会った友も、今はもう白髪の者、髪が薄い者、顔も少々ひねており、会ってみると名前と顔が一致せず時間をかけ想い出すありさま。お互い年輪を感じながら平成二十年一月三日の文化の日、午前十時竹田高校正門前に集合バスで阿蘇山、久住高原などを散策、食糧難でお腹を空かし山野を駆け巡った昔日の想い出……感



(ちよっぴり恥しいチャンチャンコ姿 於：岩城屋 2.11.3)

無量、一方今年の水害も予想以上の大被害、夕方日中行事無事終了。

午後五時から市内のホテル岩城屋にて恩師小河忠士、大津省吾、佐久間太山、岸野晋一、馬場孝之、茅野良男、田北和義各先生をお迎えし、二五会四十周年(還暦)記念同窓会を開催。

先ずは他界(十一名)された友を偲んで黙禱、代表幹事の後藤智広(旧阿南)君の挨拶に始まり、恩師からの祝詞、乾杯、全員赤いチャンチャンコ(岡本雄三君寄贈)を着ての記念撮影、ちよっぴり恥かしいやら嬉しいやら、何か複雑な感じ……。又本会には堀三郎

竹 菁 会

榎 本

潮 (旧姓麻生)

自己紹介。名古屋育ち、焼け出され組。朝地町上井田小学校卒、竹高卒後東京へ。日本橋高島屋十年勤務。七転八起の後、現在は主人、こども二人、孫四人で平均的生活をしております。

「竹菁会」は二十七年卒業生の会です。竹田、大分、福岡、東京とそれぞれ味のある会を開いております。

私達の学年は、昭和二十一年旧制中学、女学校最後の生徒として入学し、新制高校男女共学の最初の学年でもあります。ザラ紙より悪質な教科書、内容を墨でぬり消し、のり付けをして頁を減したり、先生方と一緒に戸惑いの中での学業。機関車の前にしがみつい

先生(埼玉在住)が我々のために作詞作曲された「二五会生に送る歌」が披露され皆感激感謝、全員で合唱。

会も竹田の水害、孫、妻の話、各自持ち寄った高校時代の写真を手に始めのうちは紳士的、会が進むにつれ六十歳の年齢も吹っ飛んでしまい口角泡を飛ばし、おれがわれがを連発しながら全員意気軒昂、楽しい一夜を過ごしながら五年後(関西)の再会を約し、校歌と万歳三唱で締めくくる。

お世話頂いた幹事諸君御苦労さま。(常任幹事)

たり、家畜貨車に押し込まれ悪臭に泣いたり、列車に乗れず、鉄橋を渡り、トンネルをぬけて線路づたいに歩いての通学。

お腹がすいて、よその柿をもらったり、島の作物を頂戴したり、前の晩に編んだワラぞうりが一日でだめになり、又夜なべをして編んだりとか……。次々と口をついて出てくる青春を共にして来た仲間。

物が有り余り、氾濫している今、青春を送っている若者たち。同じ昭和を生きたのですが、考え方の相違が目に見える思いでおります。

関東同窓会に出席して感じる事は、

熟年の方をはじめ皆様が、生きざまを看板に揚げ、晴れやかに参加していらつしやるのも、岡城と言うシンボルを戴き、緑と水の美しい竹田の町に育まれた精神が根底にあるからだ。

竹菁会東京組も同じで、年一回（幹事持ちまわり。）を目標に、集いを計画しておりますが、懐古趣味に走っているわけではなく、一人ひとりの生きざまを見聞し、社会勉強の一端とし、顔や目が、そして心が輝くひと時でもあるのです。

私の消えかけた記録が走馬灯のように駆け巡り、とりとめのない事を記しましたが、三十周年、三十五周年を母校で開きましたので、四十周年（平成四年）は東京で開こうと準備に入つた今日のこの頃です。

最後になりましたが、去る七月の台風による竹田の被害、復旧の見込みがたない現状、援助金しか、お手伝いする方法がなく、申訳けなく思っております。

皆さまのご健康を念じております。



（竹菁会・東京組 於：新橋第一ホテル 63. 10. 29）

第十回生 同期会

33年卒 羽田野次彦

昭和三十三年第十回卒業の東京同期会は、毎年七月の第二日曜日新宿の小田急センチュリーホテルで開催しています。

この会は卒業十年たった昭和四十三年に、当時警察庁本富士署に居た森河清君と逢い、彼が会長で小生が幹事として数名の集りから始めました。

最初は男子だけの寂しい集りでしたが、五十一年からは女性も参加し段々と人数も増えて盛大に行う様になりました。その間には五十一年に国語の都瑠先生、五十三年には社会の藤原先生（平成元年逝去）と体育の知寿先生夫婦、五十八年には化学の田北先生、五十九年には体育の羽田野先生をそれぞれ招待し、学生時代の逸話やその後の母校竹田の事などなつかしんだものです。

これも会場にしているホテルに古庄醇二君が居た為に来た招待です。

昭和六十三年八月に、卒業三十周年記念同期会を竹田に居る人の大変な御苦勞で行いました。全国からなつかしい顔が集り、式典を新築したての修道会館で行い、岩城屋での宴会は盛大で夜遅く迄語り合い、高校時代にもどりのなつかしい一日を過ごしました。

現在東京近隣には、男子五十名女子三十名ほど居り毎年三千名前後男女半々の出席です。同期会には毎年一人か二人の新顔が現れ、最初の間は誰だかわからず、自己紹介を聞いて始めて『やあ君か？』と二、三十年間での変わり様に感嘆の声を上げているが、それも三十分もすると、学生時代の『わるがね』の顔に戻って見えるのには驚きです。

（三十三年卒）

小旅行雑感

今年は水害の竹田に二回帰りました。二回とも雨に降られました。十月の旅は、台風のため二日間とも外に出られませんでした。でも、その雨について竹田の水害地を訪ねました。稲葉川の惨状には、声が出ませんでした。

十一月の旅は、今秋初の寒波のため雨と冷えこみ。やまなみハイウェイは紅葉と樹氷の両方が見られました。大船、久住山は雪でした。岡城址のみじやかえでは、夏の水害を忘れたかのように美しく紅葉していました。一日も早い復興を祈ります。

懇親会の演出は

当番幹事制で!

企画委員長 佐藤 映之

年に一度開催される同窓会は総会の部と懇親会の部に分かれている。前者は一定の形式を必要とするが、後者懇親会の演出は多種多様でしかもラフスタイルであつてもよいのではないかと思う。

同窓会は、同窓生にとっては何の屈託もなく気軽に参加できる会づくりを目指す訳だから、その運営も、できるだけ多くの方々が参画し、諸案を演出していただければ、マンネリ化防止にもなり、一体感の増幅にもつながるのではないかと思う。

したがって具体的には懇親会の運営は、各委員会と基本的には連動しつつ特定卒業年次を当番幹事とし取り仕切っていただき、次に順おくりするようにしたら如何だろうか。

財務委員会だより

財務委員長 甲斐 正和

朝夕は、めっきり肌寒さを感じる頃と相成りました。同窓会の皆様、如何がお過ごしですか。お元気で御活躍の事と存じます。

一昨年より財務委員長を拝命致し、皆様とは総会の受付で毎年元気な御顔を拝見致して居る者で御座居ます。私

の外に委員として、緒方君38期、佐田君41期、事務局の渡辺五月さんと四人で構成して居ります。緒方、佐田両君は数字のプロであり、渡辺さんは、事務局のベテランの人です。三人共、同窓会の財務運営には、非常に協力して戴いております。皆様よりお預かりした、貴重な財源で御座居りますので、責任を以て運営させて戴きます。

機会が有る度に、会長及び幹事長に各期の同窓会や集会に出席して貰って、各期の幹事さんを通じて、同窓会の維持会員の募集を行っておりますが、なかなか思う様に参りません。

これも年一回の総会以外に、皆様とお会いする機会に恵まれない為と存じます。幸に前回より年二回の会報を発行して、おりますので、会報の紙上をお借りして、財務委員より維持会員の加入を、御願ひ致します。

維持会員の増加によりまして、年一回の総会も、盛大に行えますし、加えて総会時に行っております、故郷の味懐かしい香りも、もっと皆様に喜んで頂けると存じております。

関東同窓会を盛大にする為にも、維持会員に加入を御願ひ致します。



総務委員会の設立

総務委員長

得丸 大典

十月三日ドイツ統一の日、後藤会長、伊東副会長の立会いのうえで、長吉さんより関係書類等の引継ぎを受けまして、正式に総務委員会として発足することとなりました。

総務委員会は、会の発展のため会員の把握、維持会員の増強、健全財政の確保等が主な仕事であります。

そこで、そのためには長吉幹事長が前回の臥牛で述べられたとおり、維持会員の増強に頼らなければならぬと思ひます。

会員の皆様、このことを十分理解して戴いて、維持会員への協力と、新会員の把握の協力をお願いいたします。最後に、困難な創立期より現在まで、基礎をつくられた長吉幹事長に感謝いたします。

広報委員会より

広報委員長 足立 五郎

「臥牛」の編集委員でした森 哲生氏が、一身上の都合で郷里(別府市)に帰省しました。氏は自ら経営する印刷所で「臥牛」の印刷も一手に引き受けていましたので、広報委員会は大きな打撃を受けました。幸い後任に藤沢博吉氏を迎えました。心強い限りです。臥牛もおかげさまでどうやら体裁が

整ってきました。「会務」・「クラス会情報」・「ふるさとだより」・「会員の消息」・「先生・友だち・学校・竹田等の思い出」等々を柱にしたいと考えています。

中でも、「会員の消息・動静」を広く会員にお知らせすることが、臥牛のいちばん大切な役目のように思ひます。ところが、これが私たちの最も苦手とするところですが、是非会員の皆さまに情報の提供をお願いします。左記に電話でお知らせください。

広報委員会で取材させていただきます。

- ・ 足立五郎 ○四五・九八一・〇五三七
- ・ 伊東七五三八 ○三三・五四三・八七四七
- ・ 藤沢博吉 ○四七・二五〇・二八四四
- ・ 岡村光博 ○四五・八三三・一三六〇
- ・ 吉場伸子 ○三三・六八四・八七七三

あとがき

臥牛三号をお届けいたします。昨年十二月、一号をお届けしてからのこの一年の世界の激動には、驚くばかりです。会員の皆様は、いかがですか。

激動と言え、わが郷土竹田を襲った七月の大水害。会員に出会うたびに話題になります。一日も速い復興を祈ります。

今回から印刷所が変わりました。カットは、高山画伯の作品を使わせていただきました。よいお年を。(G)

